

## 平成24年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

70周年の節目を迎える本校は、「質実勤勉にして、明朗清楚、中正にして健康な心身の育成をはかる」という創立以来の教育方針を踏まえ、家庭・地域との連携のもとに、教職員が一体となり組織的に取組みを進め、「進路を切りひらく確かな学力」と「豊かな自己を確立し、より良い社会を創っていく志」の育成をめざす。

1. 創立以来の「文武両道」の良き伝統を踏まえ、学習においても行事や部活動等においても「ひたむきに頑張る」生徒を育成する。
2. 地域の社会資源を積極的に活用しながら、生徒の「学ぶ力」（自学自習力・勉強のスキル）、「学ぼうとする力」（志・意欲・目的意識・勤労観・社会参画と貢献の心）をはぐくみ、「学んだ力」（学習の成果・成績・進路実績）を深めていく。
3. 「自主・自立の精神」を基本に据えた自治会活動、「全員で取り組む」ことを信条とした体育祭・創造祭（文化祭）などの自治会行事、活発な部活動などを通じて、協力・共同によってことをなしとげるリーダーシップ・フォロアーシップをはぐくむ。

## 2 中期的目標

## 1. 確かな学力の育成

## (1) 授業力向上

ア 授業アンケートの活用や公開授業・研究授業の推進を通じ、個々の教員の授業の充実を図り、学校教育自己診断における「学力のつく授業が多い」の項目で、肯定的回答20%増(H23年度は55%)を達成する。

イ 家庭学習課題（宿題）の充実、新入生全員を対象にしたスプリング合宿（勉強合宿）、自習室の整備等によって、家庭学習時間20%増をめざす。特に、家庭学習習慣の不十分な生徒に対する、将来の目標づくり等のキャリア教育を推進する。

## (2) 教育の情報化の推進

ウ ICTを活用する授業を推進し、「わかる授業、手ごたえのある授業」を展開する。

エ 生徒に関する諸データの集約・活用に向けたシステムを構築し、校内LANの活用による校務の情報化・効率化を図る。情報専任者の設置から、情報係の分掌化を促進する。

## 2. 夢・志のはぐくみ

## (1) 系統的なキャリア教育による志や目的意識の醸成

ア 「志学」の充実を図り、FROM NOW（総合的な学習の時間）やLHR・学校行事を点検し、従来の取組みを位置づけしなおす。

イ 各学年数時間程度の新しい学習プログラムを開発し、布施高版市民性教育（キャリア教育・「志学」）を確立する。

## (2) 進路保障

ウ 進路保障の充実を図り、私立大学のべ合格率30%以上、センター試験受験者30%増を達成する。

## 3. 生きる力と豊かな心のはぐくみ

## (1) 自己を厳しく律する力と自尊心の育成

ア 挨拶指導・遅刻指導の充実等により、年間総遅刻数25%減を実現する。

イ 教育相談委員会の活性化、各学年や関係委員会との連携による個別生徒支援の充実を図り、学校教育自己診断における「親身に相談に応じてくれる先生が多い」の肯定的回答70%以上を達成する。

ウ 充実した伝統的自治会行事の継続、部活動のベスト記録・成績の更新、菜の花忌運動等の地域貢献を通じて自主・自立の精神、社会貢献の姿勢を育む。

## (2) 地域連携強化による地域に大切にされる学校づくり

エ 家庭との連携強化、PTA活動の充実を図り、保護者授業参観参加者の倍増を実現するとともに、新たに導入したワークショップ形式の保護者と教職員の意見交換会の継続・充実に努める。

オ 近畿大学をはじめ他大学との連携による出前講義・体験講義の充実を図る。また、司馬遼太郎記念館との連携の充実を図り、志学に位置付けた「司馬遼太郎学習プログラム」「菜の花忌運動」を展開する。

## 4. 機能的な組織づくり

## (1) 若手教員の校内OJTの充実

## (2) 運営委員等のミドルリーダーの育成

## (3) 学校改革委員会の見直し

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 年 月実施分]	学校協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
確かな学力の育成	<p>(1) 授業力向上 ア授業アンケートの活用や公開授業・研究授業の推進を通じ、個々の教員の授業力向上を図る。 イ家庭学習課題の充実、学習合宿の実施、週末課題の工夫、自習専用室の設置等により、自学・自習力を高める。</p> <p>(2) 教育の情報化の推進 ウICTを活用する授業増を推進する。 エ生徒に関する諸データの円滑な集約・活用のためのシステムと、担当組織を構築する。</p>	<p>ア○授業アンケートの個人別・教科別の分析結果を有効に活用する。 ○公開授業を拡大。研究授業は全教科で年間1回以上実施する。</p> <p>イ○24年4月末、新入生全員を対象に初めて実施するスプリング合宿(学習合宿)を活用して、学習意欲の向上を図る。 ○自習専用室の整備等により、学校にいる間での意欲的な自学・自習が可能となる条件整備をする。 ○家庭学習時間ゼロの生徒に対する、将来の目標づくり等の指導を推進する。</p> <p>ウICTを活用し「わかる授業、手ごたえのある授業」を展開する。 エ様々な分掌が個々にもつ諸データを集約し、円滑・迅速な活用に向けたシステムを構築。校内LAN活用による校務の情報化・効率化を図る。</p>	<p>ア○授業アンケート「学力のつく授業」についての肯定的回答10%増を達成する。 ○全教科での研究授業の実施、教員全員が年間1回以上の同僚の授業見学と相互評価を行う。</p> <p>イ○スプリング合宿後の1年生全員へのアンケートで「学習意欲が高まった」肯定的回答70%以上を達成する。 ○70周年記念事業の中でH24年度内に自習専用室を整備し積極的に活用する。 ○家庭学習時間、各学年10%増を達成する。(4月に実施する学力生活実態調査で比較する)</p> <p>ウ年間でICT活用授業を実施した教員が、常勤教員の40%以上となるよう取り組む。 エ H24年度に情報専任者を設置し、H25年度に情報系の分掌化を行う。</p>	
夢・志のはぐくみ	<p>(1) 明確な進路目標をもてない生徒たちに対し、系統的なキャリア教育を通じ、目的意識を高める。 ア「志学」の充実を図り、FROM NOW(総合的な学習の時間)やLHR・学校行事を総点検し、従来の取組みを再構築する。 イ学年ごとに数時間程度の学習プログラムを開発し、布施高版市民性教育を確立する。</p> <p>(2) ウ進路保障のため、組織的な講習・補習に積極的に取り組むと共に、生徒・保護者に対して、適切な時期に進路講演会を開催する。</p>	<p>ア○FROM NOW 検討委員会や進路指導部を中心に、進路に関係するFROM NOWやLHR・学校行事等を総点検し、キャリア教育・「志学」の観点を加味した改善を行う。 ○70周年記念事業等を通じ、在校生に卒業生との交流の機会を増やし、進路をより身近なものとして考えさせる。</p> <p>イ○司馬遼太郎記念館などの地域資源を活用した学習プログラムを研究・開発する。 ○ユネスコスクール準備委員会の立ち上げ。申請手続きの開始。他のユネスコスクールの情報収集。</p> <p>ウ生徒が具体的に夢をもてる講演会を設定し、その流れに連動させて、保護者対象の講演会を系統的に開催する。</p>	<p>ア○FROM NOWの年間指導計画の充実。 ○進路アンケートまたは学力生活実態調査により、経年変化を比較。進路目標を決めている2年の生徒、10%増。</p> <p>イ○ユネスコ委員の具体的活動、学校教育自己診断で肯定的回答。</p> <p>ウ○私立大学のべ合格率は5%以上増。また、センター試験受験者も5%増を達成する。 ○参加した保護者アンケートでの肯定的回答。</p>	
生きる力と豊かな心のはぐくみ	<p>(1)○自己を律する力と自尊心の育成を図る。 ア○挨拶指導・遅刻指導の充実等により、望ましい生活習慣の定着を図る。 ○障がいがある生徒と共に学び共生の意識を高める。</p> <p>(2) イ教育相談委員会の活性化、各学年や関係委員会との連携による個別生徒支援の充実を図る。</p> <p>(3) ウ自治会行事の充実、部活動の加入率や対外記録の向上、地域連携活動等を通じて、自主・自立の精神、社会貢献の姿勢をはぐくむ。 エ耐震工事に伴い体育館使用が不可となる7～8月、生徒の安全と部活動の保障に工夫する。</p> <p>(4) 地域連携強化による地域に大切にされる学校づくりをめざす。 オ○家庭との連携の強化、PTA活動のより一層の充実を図る。 カ○近畿大学をはじめ大学等との連携による出前講義・体験講義の充実を図る</p>	<p>ア○校長・首席等による校門での指導。それに加え、学年・生指・校長と遅刻回数に応じて段階的に行う指導を、1年間のトータルでなく、半期ごとに区切って、きめ細かく指導する。 ○障がいがある生徒が、大きな支障なく学校生活を送れるよう、教職員の情報交流を的確に迅速に行うと共に、サポート体制を強化。同時に、同学年の生徒にも、講演会やLHRを通じての啓発を行う。</p> <p>イ発達障がいに関する専門的知識の深化のため、研修会等を開く。</p> <p>ウ○菜の花忌運動を、全校的な取組みとし、地域貢献の意識を高める。 ○部活動の実技指導者の不足が課題であるため、社会人人材バンク活用以外に、後援会等の活用を図り、部活動を支援する。</p> <p>エ近隣にある東大阪総合体育館の借用や、近隣校との合同練習で対応。</p> <p>オHP充実やあらゆるPTA行事を通じて、保護者に対して学校の取組みを常に発信していく。</p> <p>カ近畿大学以外にも、関大・立命館大・大阪成蹊大等と目的に応じ、連携を拡大する。</p>	<p>ア○年間総遅刻数10%減を実現する。 ○障がいがある生徒の3年次への進級。</p> <p>イ学校教育自己診断における「親身に相談に応じてくれる先生が多い」の肯定的回答65%以上を達成する。</p> <p>ウ菜の花忌運動に自主的に参画する生徒が、全校生の25%以上。(H23年度は10%)</p> <p>エ体育館使用部員へのアンケートオ保護者対象の授業参観参加者の10%増。</p> <p>カ近大に加え、3校以上の大学等と連携する。</p>	
機能的な組織づくり	<p>(1) 若手教員の校内OJTを充実させ、人材育成に努める。 (2) 運営委員その他のミドルリーダーを育成し、能動的な教育活動を展開する。 (3) 学校改革委員会の目的とメンバー構成を見直し、学校変革の要となる、より機能的な組織とする。</p>	<p>ア20～30歳代の教員が、本校教員全体の12%。若手教員に対する校内研修を、管理職・首席・指導教諭等で、年間を通じ系統的に行う。 イ先進校等の取組みについても学びつつ、意識改革を図る。 ウ現状維持の視点でなく、積極的に新たな取組みを提案していく中心的な組織として、構成メンバーの改組と目的の明確化を行う。</p>	<p>ア研修参加者のアンケート イ年度末の各分掌・学年の総括 ウ規定の変更</p>	